

マッチングフォーラムのご案内

～ロボットがどこでも使われる未来を目指して～

当財団では、企業の技術開発、製品開発を支援するため、企業が求めるニーズと大学や研究機関が持つ魅力的な技術シーズを結びつけの場を提供します。研究現場を訪問し先端の研究内容に触れるとともに、事業化に向けて研究者と意見交換を行う、「ニーズ/シーズのマッチングフォーラム」を開催します。

- 開催日時：平成28年11月9日(水) 14:00 ～ 16:00
- 開催場所：近畿大学工学部 (〒739-2116 東広島市高屋うめの辺1番)
- 訪問研究室：ロボティクス学科 フィールドロボティクス研究室
こやちのりほ 小谷内 範穂 教授・博士(工学)
- 専門分野：歩行ロボット、車輪ロボット、フィールドロボティクス
- 発表テーマ：『ロボットがどこでも使われる未来を目指して』

研究概要

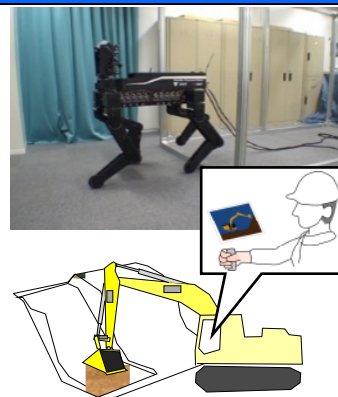
現在、ロボット産業としてマーケットを形成しているのは自動車工場や電気製品の工場で使われている産業用ロボットですが、ロボットの適用範囲を工場以外の分野に広げて新しい産業分野を作ろうという試みが20世紀末から行われてきました。特に屋外や特殊環境などへの適用は「フィールドロボティクス」と呼ばれています。

本研究室では、このフィールドロボティクスの範囲をより広くとらえて、屋外だけではなく、生活環境でのパーソナル・ロボットの研究や建設機械の自律化・情報化の研究を進めようとしています。

特徴・既存技術との優位性

車輪型のパーソナル・ロボットとしては、「ペッパー」のレンタル販売が開始されています。しかし、土足で家の中を移動することを前提にしている欧米社会とは異なり、日本の社会は、靴を脱ぐことを前提にした住宅環境であり、さまざまな段差・階段が残っています。車輪と4脚歩行を融合させて、平坦な床も段差も区別無く人間と寄り添うフレキシブル・パーソナル・ロボットの研究を行っています。

GPSの普及と国土強靱化計画や2020年東京オリンピックなどを見据えて、建設土木作業のロボット化も急務といわれています。過去に鉱山用建設機械の完全無人自律運転の研究を行った経験を基に、より現実的な情報化施工へのロボット技術の応用を研究しています。



少子超高齢化社会の到来で、介護支援技術にはさまざまな省人化技術が必要とされています。フレキシブル・パーソナル・ロボットの開発を通じて、さまざまな介護支援や自立支援技術の要素技術の開発へと結び付けたいと考えています。

完全無人化・自律化技術を目指す、部分的な実用化の道も明確に見えてきます。マシンガイダンスの高度化もそのひとつです。

申込み・問い合わせ先

- 連絡先：(公財)ひろしま産業振興機構 研究開発支援センター [担当：百々(どど)]
(〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47)

TEL：082-240-7712 FAX：082-242-7709

- 申込期限：平成28年11月7日(月)までに、お申込み又はご連絡ください。

主催 公益財団法人ひろしま産業振興機構、東広島市産学金官連携推進協議会